

桐生西ロータリークラブ週報



2017-18年度RIテーマ **イアンH.S.ライズリーRI会長**
ROTARY: MAKING A DIFFERENCE ロータリー:変化をもたらす

例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-22-9155
 URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-44-2777
 会長 天沼一夫 幹事 青山 豊 クラブ会報・雑誌担当 近藤幸利
 公共イメージ委員長 早川勇一 委員 鳥嶋隆一、今泉攻一(歴史編集・IT・CICO担当)、齊藤学

No. 2108

2018年2月23日発行

第2235例会 (2018・2・16) 報告

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 点 鐘 | 7. 食 事 |
| 2. ロータリーソング | 8. 委員会報告 |
| 3. 出席100%表彰・誕生・結婚祝い | 9. タイ・チェンマイ訪問報告 |
| 4. 会長報告 | 10. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | 11. ロータリーソング |
| 6. 乾 杯 | |

例会終了後会員増強打合せ開催

◆出席100%表彰

〈4年〉
 栗原 秀一君
 〈13年〉
 東郷 庸史君



◆誕生祝い



新木 明夫君
 中島俊太郎君
 青山 豊君
 新井みゆき君
 池末 晋介君

◆結婚祝い



金子福松君、下井田秀一君、野村 滋君、河内良範君

◆会長報告

天沼会長
 1. 明後日18日、新会員セミナーが午後3時からホテ

ルメトロポリタン高崎で開催されます。当クラブからクラブ研修リーダーの金子バスト会長と、田中都志子君、中里和子君、越塚ひとみ君の4名が参加されます。

◆幹事報告 浦野副幹事

- ◇本日例会終了後1Fで会員増強打合せを行います。
- ◇次例会は桐生赤城RCとの合同夜間例会です。また本日からは会費の集金を始めています。
- ◇先週のクラブ会報を印刷し直しましたのでお差し替え下さい。
- ◇ハイライトよねやま215が配信されました。(各テーブルに配布)
- ◇2月12日(月)の桐生タイムス紙にロータリーデーと寄付金寄贈の記事が、13日(火)の上毛新聞にロータリーデーの記事が掲載されました。(各テーブルに配布)
- ◇上毛新聞社より寄付金のお礼状と感謝状を頂きました。
- ◇桐生市社会福祉協議会より寄付金のお礼状を頂きました。
- ◇例会変更のお知らせ
 伊勢崎RC 2/28,3/21(水)
 ◇クラブ会報が到着しています
 桐生中央RC 2/1・7 桐生赤城RC 2/6

◆乾 杯 栗原会員



本日出席100%祝いを頂きました。年末に小児科の門前の薬局に一日手伝いに行きました。毎回毎回行く度に風邪をもらってくる始末です。今回は正月三が日から一カ月間風邪をひいた状態が続いてしまいました。薬剤師として本当に致命的な身体の弱さだと思います。今、インフルエンザが大流行しています。47都道府県全部で警報が出ており、群馬県も12の保健所で2週連続で警報が出ている状態です。皆様も健康にはお気を付け下さい。それでは皆様の健康とご多幸と、桐生西RCの益々の発展を祈念しまして、乾杯!!

◆食事メニュー

1207キロカロリー
 菜花としらすのサラダ、メカジキのおろし煮、香の物、帆立のコキール、牛肉と白菜のスープ、白飯、一口小菓子

《次例会予告》

3月2日(金) 新会員卓話 山根久男君・田中都志子君
 3月の出席100%表彰、誕生・結婚祝い

◆委員会報告

□クラブ運営委員会

◇出席報告

会員総数63名 (出席免除者11名の内8名出席の為)
出席率対象者60名、出席率対象者出席人数45名
欠席者15名(内前メイク6名) 出席率85.00%
前々例会修正出席率88.52% (最終欠席者7名)

□拠金委員会

◇ニコニコBOX

チェンマイ訪問報告ご苦勞様です 近藤君
タイ訪問お疲れ様でした 前原君、塚本(貢)君、加藤君
GGプロジェクトお疲れ様です。素晴らしいですね 東郷(学)君
出席100%誕生結婚祝の皆様おめでとうございます 天沼君
お誕生祝いの皆様おめでとうございます 山根君
出席100%を頂いて 栗原君
誕生祝いをありがとうございます 新木君
結婚祝いを頂いて 金子君、下井田君、河内君
妻・子供からバレンタインチョコを貰いました 石戸君
St.バレンタインdayの義理チョコ廃止して欲しいです。
恵方巻きも同じく 野田君
インフルエンザかからない様気をつけます 越塚君

◇ロータリー財団

タイ・チェンマイ訪問報告楽しみです 山形拠金委員
天沼君、阿左美君、前原君、奥村君、藤本君

タイお疲れ様でした

出席100%を頂いて
誕生祝いをありがとうございます
結婚祝いを頂いて 金子君、下井田君、河内君
平昌五輪そろそろ日本金メダルでしょうか 野田君
ピョンチャンオリンピック日本ガンバレ! 家住君
ピョンチャン五輪フィギュアの羽生君気になります 山根君
佐々木さん沢山ありがとうございます 新木君
インフルエンザかからない様気をつけます 越塚君
リサイクル募金ご協力ありがとうございます 船戸君
飛行機恐怖症治したいです 浦野君

加藤君
栗原君
中島君
河内君
野田君
家住君
山根君
新木君
越塚君
船戸君
浦野君

◇米山奨学

石戸拠金委員

タイ・チェンマイ訪問報告楽しみです 乾君、園田君、井本君、藤本君
タイお疲れ様でした 加藤君
出席100%を頂いて 栗原君
結婚祝いを頂きました。ありがとうございます 河内君
新会員セミナー出席される田中君・中里君・越塚君、
頑張ってください。金子研修リーダーお願いします 天沼君
確定申告はじまりました 野田君
ピョンチャン五輪今日のフィギュア楽しみです 山根君
山形君ごちそうさまでした 新木君
インフルエンザかからない様気をつけます 越塚君
リサイクル募金ご協力ありがとうございます 船戸君

タイ・チェンマイ訪問報告



グローバル補助金；“Community Waterworks”の事業内容説明

国際奉仕・友情交換担当 下井田秀一君

プロジェクト名：Community Waterworks(GG1417170)

概要：村人および児童養護施設に清浄な水を提供する。この村は、雨の少ない年は水不足に悩まされる。不衛生な水による健康被害が多発している。

場所：タイ北東部チェンマイ県ムセキー村

予算：浄水システムおよびその建屋 50, 222ドル

資金(単位\$):

	クラブ・地区名	クラブ寄付	DDF	WR	合計
実施国	3360地区		10, 000	10, 000	20, 000
	テインタイガムRC	4, 815		2, 407	7, 222
援助国	2840地区		10, 000	10, 000	20, 000
	桐生西RC	2, 000		1, 000	3, 000
		6, 815	20, 000	23, 407	50, 222



ムセキー村の水道浄化設備建設と忘れられていた日本兵の墓参

「～二人の涙～」

奉仕プロジェクト委員 野村 滋 君

私達 桐生西ロータリークラブは、2015年チェンマイ・テインタイガムロータリークラブの要請を受け、タイ北西端ミャンマー国境にあるカレン族の住むムセキー村へ、グローバル補助金を活用し水道浄化設備を建設する事になり、2015年4月18日に現地視察を行い、所定の申請、設計、予算付け、工事、の手順を経て、2年9ヵ月後の2018年1月27日、ムセキー村で行われた竣工式典にクラブ会員7名で参加して参りました。

前泊したパライのホテルを出発して車で山道を1時間半、会場には大勢の村人が集まり、正面には完成したばかりの浄化タンク3基、別棟に軟水化装置、滅菌機、新しく掘られた池が凛々しくなっていました。

式典の始まりは、白い民族衣装を着た少女達の踊りや歌の歓迎、続いてランシーさん(男性)と言う、今回の旅の現地旅行会社の社長で、チェンマイ・エアポートロータリークラブ前会長に通訳をして頂き、チェンマイ・テインタイガムRCの会長(女性)、我が桐生西RCの天沼



会長の祝辞から始まり、感謝の言葉を、村長、牧師、行政官、等々10人ほどに喜びの笑顔で挨拶して頂きました。

その中に一人だけ涙で言葉を詰まらせて話す婦人がいました。彼女こそ、このプロジェクトの中心になって奔走していた隣村(キアウポン村)の村長婦人のゾタンシアマさんと言う人です。

インド出身の教育者で年齢は50才位？の婦人で、彼女が二十年程前にボランティアで来た時のこの村の現状は、口減らしのために生まれてきた子供の間引きをするほど貧困にあえいでいたそうです。

彼女は、この村を救いたいとの一念で、この村に定住し、村人と結婚してロータリークラブに入会し、ロータリークラブの援助でボランティアの拠点事務所を村に造り、戸籍の無い少数民族の貧しさを世界に訴え続けている人であります。

言葉は良く聞き取れませんでした。資金提供をするロータリークラブと地域住民、施工業者との狭間で、私達の想像を超えた苦労があったのだと思います。それでも、この水で村人たちの命を守る事が出来る、と言う歓喜の涙であったのではないかと思います。私達も涙せずには居られませんでした。

素晴らしい人に出会い、良い事をしたなあと、つくづく思いました。一人目の涙は、ボランティア活動家ゾタンシアミさんの歓喜の涙でした。

今回の私達のタイ訪問には、もう一つの目的がありました。2年9ヶ月前の2015年の現地視察の時、ゾタンシアミさん達が用意してくれた昼食を頂いている時に、ムセキー村の村長が「ここから少し行った所に日本人の墓が有るが行って見ないか」と言うのであります。「なぜカレン族の村に日本人が、……」一瞬、身体から血の気が引き言葉を失いました。話しを詳しく聞くと、インドでのインパール作戦に敗北した日本軍兵士がバラバラになってミャンマー（ビルマ）の山々を超え、タイを目指して逃げ、それから日本を目指したのだと思われます。そこで私達は彼に質問をしました。「その後、現在に至るまで生き残った元兵士、又はその家族が、この村を訪れた事がありますか？」と。彼らの答えは「この村に来た日本人は、数名のボランティアとあなた達だけです。」という事でした。

直ぐにでも、その場所へ行って手を合わせたいと考えましたが、本来の目的である現地視察をしてからとなると、外灯一つ無い真っ暗な山道を5時間も車でホテル迄帰るのは危険すぎるので断念せざるを得ませんでした。奇しくも2015年は戦後70年にあたります。タイの少数民族の住む村に水道浄化設備を造るプロジェクト視察の旅が、思っても居なかった方向に展開したのは、単なる偶然だったのでしょか。それとも戦後70年、異国の地に眠り、忘れ去られようとしている兵士たちの叫びだったのでしょうか。

2018年1月25日午前9時半、私達7名はバンコク経由でチェンマイに到着しました。出迎えてくれたのは、チェンマイ・テインタイガムRCのメンバー数人と、前述した旅行会社社長兼通訳のランシーさんでした。



最左がランシーさん、野村会員と天沼会長の間にテインタイガムRC会長

彼は、私たちのタイ訪問の二つの目的を事前の打ち合わせで理解し、調査も勉強も充分してくれました。

まず最初に案内されたのは、チェンマイ北部バンカー村の小中学校の敷地内にある日本兵の慰霊碑でした。この慰霊碑は2000年位に佐賀県の僧侶「しらべ」さんという人が中心になって造られたそうです。その時ランシーさんは通訳や遺骨収集の手伝いをしたそうです。今は、殆どの村人は戦争があったことや日本兵がここで何百何千人と死んだ事を知らず、遺骨の上に家を建て暮してい

るのだそうです。しらべさんは遺骨の沢山有りそうな家はお金を払って取り壊し、遺骨収集をしたそうです。

ランシーさんの話では、この地に日本兵の遺骨が多いのは、この村は寺院が多く安全で食料も得やすいと考えた兵士達が、とりえずこのバンカー村を目指したものの、力尽きて死ぬ者、伝染病（マラリヤ）で死んでいく者が沢山居たのではないかと、言う事でした。

私達は、日本から持っていった線香、酒、お茶、甘納豆、煎餅、そしてランシーさんが用意してくれた生花を供え、一人ずつ兵士をねぎらう言葉で合掌しました。

慰霊碑を管理してくれている隣の小中学校にも立ち寄り、少しばかりの寄付もさせて頂きました。この学校には日本語の授業もあり、日本語の先生も挨拶をしてくれました。

チェンマイのホテルに向かう車中で私はランシーさんに質問をしました。「インパールへの輸送ルートを作るためとは言え、他人の家に土足で入ったような日本人に何でタイの人達はこうも優しくしてくれるのか？」と。答えは、「タイで生きている80歳過ぎの人達の子供の頃の日本兵の思い出は、まず悪い事をしない、仕事を手伝えれば何かをくれた、日本の歌を唄ってくれたり、故郷の踊りを踊ったりしてくれて楽しい思い出ばかりだ。」と言うのです。更にランシーさんは、「たぶん」と前置きをして、「輸送ルートの工事は現在の公共事業的な役割をして村も潤ったのではないか」という事でした。

チェンマイのホテルで一泊し、翌26日朝、竣工式典を行うムセキー村に近いパイに向けて出発しました。パイに一泊するのは、竣工式後に日本兵の眠る未だ誰一人墓参をしていない所に行く為で、前回のような失敗はしたくなかったからでありました。

パイまでは3時間、途中には資材輸送用に日本軍が造った鉄骨のトラス橋があり、観光地になっていました。パイの街は、私達が想像していた以上にリゾート化していて、気温も低く、ナイトバザールには欧米人や中国人で賑わっていました。

パイのリゾートホテルに一泊し、翌27日朝、私達は、前述の水道浄化設備竣工式典に参加するためにムセキー村を目指しました。竣工式典が終了すると村長の案内で、念願の日本兵の眠る地に向かいました。テインタイガムRCのあのゾタンシアミさんも同行して下さいました。車がやっと通れる程の狭い道を通ること30分、その場所は道から3m位上った山の傾斜地に岩と岩に囲まれた日当たりの良い狭い窪地でありました。周囲の下草がきれいに刈られていたのは、ランシーさんやロータリークラブの人達がわざわざ下見に来て、草刈を頼んでくれたのです。

そしてそこには、この場所で死んでいった兵士の事を良く知る87歳の老婆を連れてきて戴いております。彼女はカレン語しか話せません。それで、老婆の73年前の14歳の頃の記憶を、孫がタイ語に訳し、ランシーさんが日本語に訳してくれました。老婆の話は次の通りでした。

この窪地には20代前半と思われる二人の日本兵が居て、二人とも



老婆に感謝の意を渡す天沼会長

マラリヤに感染していて、感染を恐れる村人は誰も近寄らなかつたそうです。食べ物を欲しがると二人に、少女は毎日ごはんを水を与えました。でも、数日後に一人が亡くなり、その数日後にもう一人も死んだそうです。その後も村人はこの場所には近寄らず、自然に朽ちていったそうでありました。

私達は日本から持って来た御盆の上に、小皿、茶碗、水、お茶、ジュース、お酒、あんこ玉、かりんとう、煎餅、梅干、米、をお供えて、一人一人が線香をあげ、二人の兵士に思いの言葉で話しかけ、手を合わせました。私は、「73年間お待ちせしました。どうぞ私の背中に乗ってください。一緒に日本へ帰りましょう。」と言いました。最後に、ランシーさんが線香をあげ手を合わせながら、目にいっぱい涙を光らせて震えるような声で「みなさん考えてみてください。異国の地で助からない病気にかかり、死ぬ日を待ち続ける若い兵隊さんの心の内を。どんなに悲しかった事でしょう。どんなに辛かった事でしょう。」と言って泣いているのです。私達も、ランシーさんの優しさに涙せずには居られませんでした。



二人目の涙は、若き日本兵の無念さを思いやる現地旅行社社長ランシーさんの涙でした。

墓参も終わり、お礼を言ってムセキー村をたつ時、ゾタンシアミさんとハグをした後で、「今度はぜひ日本へ来てください。」と言うと、彼女は笑顔で「私はインド国籍なので簡単にはビザは頂けないのです。」と、あたかも「これで充分満足です。」と言う表情で答えてくれたのが印象的でした。



日本兵の眠る地にて、やや中央の首に白スカーフの方がゾタンシアミさん

チェンマイ空港ではランシーさんと硬い握手をし、彼の心配りと優しさに感謝の意を伝え、お別れしました。そして、バンコクで一日のんびりして疲れを取り、帰国の途に着きました。

以上で2度目のタイ訪問記を終了しますが、2年9ヶ月前の1度目のタイ訪問記が、「忘れられていた日本兵の軌跡」と題して、2015年8月12日の桐生タイムスに掲載され、ロータリーの友2015年12月号にも掲載されました。その反響は、私が思っていたよりも大きく、そのうちの一つ、倉敷市の児島東ロータリークラブの西山芳男様からの手紙を紹介します。

西山様のお義父様は平成4年に他界されましたが、運よく生還した極わずかな隊員の一人であったそうです。負傷して逃げる途中、カレン族と思われる現地人に助けてもらった恩があると話していたそうです。可哀想ですが途中で歩けなくなった兵士には、手榴弾を一つ持たせて置き去りにしたそうです。極限状態で一人の兵士を連れて帰るには4人の兵が必要となり、それが連鎖してくると部隊は全滅してしまうからだそうです。生き残れた事が負い目で、亡くなる直前まで何度も遺骨収集に参加していたそうです。

インパール作戦で生き残った人は、私の周りにも何人か居ました。殆どの方が戦争の話をしてくれませんが

した。思い出したくも無い悲惨な体験に加え、生きているのが申し訳ないと言う負い目が、生還した人達を無言にしてしまったのだと思います。

戦死者が3万5千人とも4万人とも言われ、その7割以上が病気や飢えで死んでいったと言う無謀で無計画なこの作戦を強行した司令官は、いち早く日本に帰り、何の反省も責任も取らずに長生きをした事実を知るにつけ、ミャンマーやタイの奥地に眠る日本兵が哀れでなりません。二人の涙は、沢山の事を私達に教えてくれました。

第2分区A ロータリーデー開催

田中久夫ガバナーの地区目標の1つに、『第3四半期にロータリーデーの開催』が掲げられており、第2分区Aでは遠藤ガバナー補佐の提案により「桐生乳児園へのタオル等の贈呈」を計画し、2月8日(木)午後2時30分から桐生プリオパレスで、贈呈式を行いました。

当日は田中ガバナーのご臨席のもと、桐生5RCの会長・幹事、公共イメージ委員長等が出席し、当クラブからは天沼会長、青山幹事、早川委員長、そして地区公共イメージ委員の高森君の4名が出席しました。

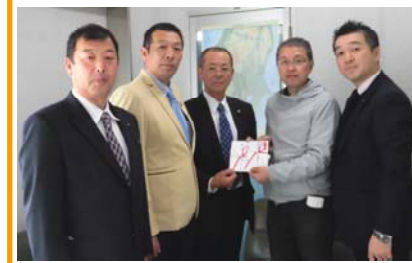
桐生乳児園の秋山衛理事長に、目録およびロータリーデーの補助金を手渡しました。

桐生乳児園は0～3歳までの育児放棄等をされた子供を保護し養育している施設で、年始等のタオルをおかけに使用していますが、近年タオルの寄付が減り、困っているそうです。そこで、桐生5RC会員がタオル・バスタオル・タオルケット・シーツを持ち寄り、約2千本が集まり、お贈りする事が出来ました。

当日は、桐生タイムス社と上毛新聞社から取材にお越し頂き、両紙とも写真入りで掲載して頂きました。



納涼・忘年家族会の募金を寄贈する



上：桐生タイムス社にて中澤キャブへ
下：上毛新聞桐生支局にて斉藤支局長へ



天沼年度の納涼家族会と忘年家族会で集まった募金約20万円を、桐生タイムス社を通じて桐生市社会福祉協議会とみどり市社会福祉協議会に、そして上毛新聞社の愛の募金に共々5万円を寄付しました。

2月8日(木)、天沼会長・青山幹事・高森地区公共イメージ委員・早川公共イメージ委員長の4名で両新聞社を訪問してお渡しして参りました。また残りの約5万円はグローバル補助金に充てる事になりました。